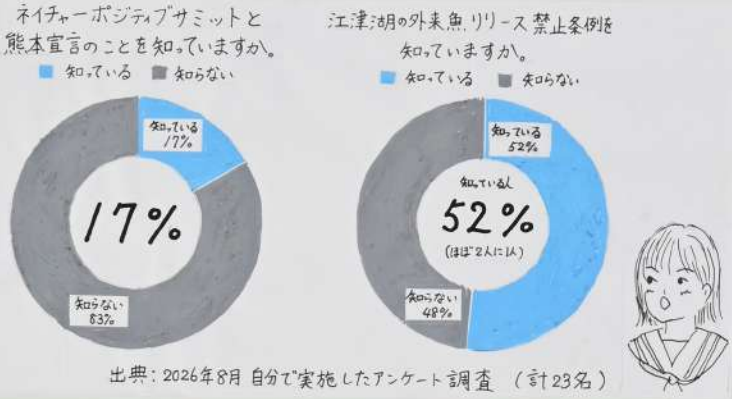
熊本から世界へ！
「熊本宣言」が語る未来を、私たちの江津湖から
～リリース禁止で挑む、身近な「ネイチャーポジティブ」～

「地域社会の主体的行動」は、まず現状を「知る」ことから

テレビで「ネイチャーポジティブ」を知り、市のホームページを調べたのが活動のきっかけです。実はそれまで、私は江津湖のルールを何も知りませんでした。「熊本宣言」が呼びかける「自然回復の鍵は地域社会の主体的な行動にある」という言葉は、身近な行動の大切さを教えてくれます。でもアンケートをとると私と同じようにほぼ2人に1人がルールを知らないことがわかりました。私たちはまず、この現状をみんなで「知る」ことから始めてみませんか。



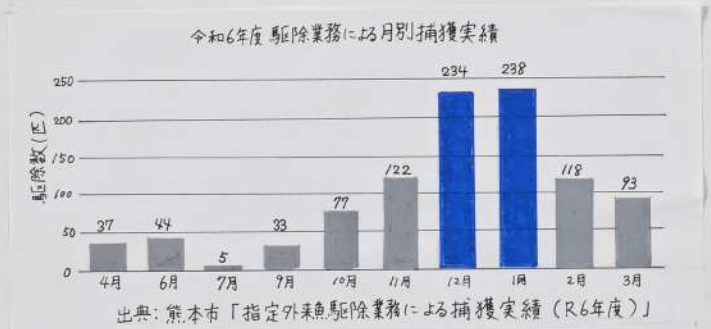
出典：2026年8月 自分で実施したアンケート調査 （計23名）

市民と行政が力を合わせる「社会全体で取り組むアプローチ」

宣言が呼びかける「みんなで協力すること」。江津湖では、市民がルールを守って「回収いけす」に入れる行動（回収された重さは最初の約7倍に！）と、熊本市が水温の下がる「冬」に集中して行う駆除が、がっちり噛み合っています。この二人三脚の協力こそが、江津湖の自然を取り戻す強力な歯車です。



出典：熊本市「指定外来魚回収実績 （H27～R7年度）」



出典：熊本市「指定外来魚駆除業務による捕獲実績（R6年度）」

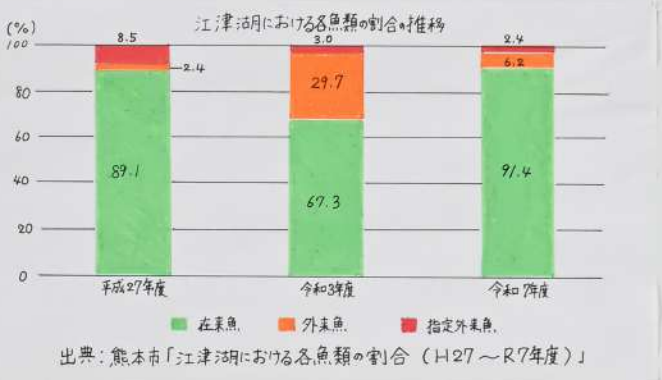


ティラピアは元々あたたかい水を好む熱帯原産の魚。冬になって江津湖の水温が下がると、動きが鈍くなるため、冬の駆除が効果的！

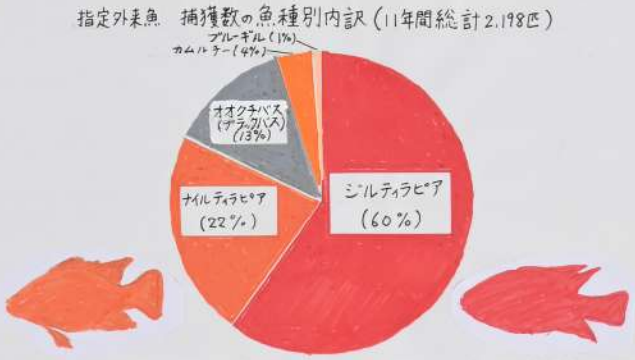


「自然の損失を止め回復へと転じる」江津湖の挑戦と、意外な脅威

「熊本宣言」の目標は 2030年までに自然を豊かに戻すことです。最新のデータでは在来魚が91.4%までV字回復し、復活の兆しが見えています。でも駆除のデータを見ると、ブラックバスではなく、温水性の「ティラピア類」が全体の8割も占めるという、意外な問題も見えてきました。



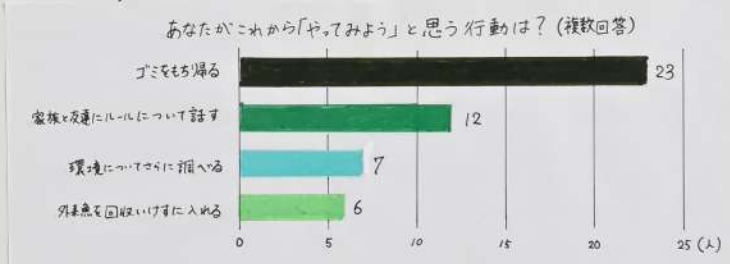
出典：熊本市「江津湖における各魚類の割合 （H27～R7年度）」



出典：熊本市「魚類生息状況調査による捕獲実績（H27～R7年度）」

「熊本宣言」の誓いを胸に豊かな江津湖を未来へつなぐ

「人々にポジティブな未来を実現する唯一の道は、ネイチャーポジティブな未来を築くこと」―― この「熊本宣言」の言葉は、遠い世界の話ではありません。アンケートで分かった、私たちの「ゴミを拾う」「ルールを伝える」という小さな決意こそが世界を変える一歩になります。美しい江津湖をつなぐため、今日から一歩を踏み出しましょう！



出典：2026年8月 自分で実施したアンケート調査（計23名）

